

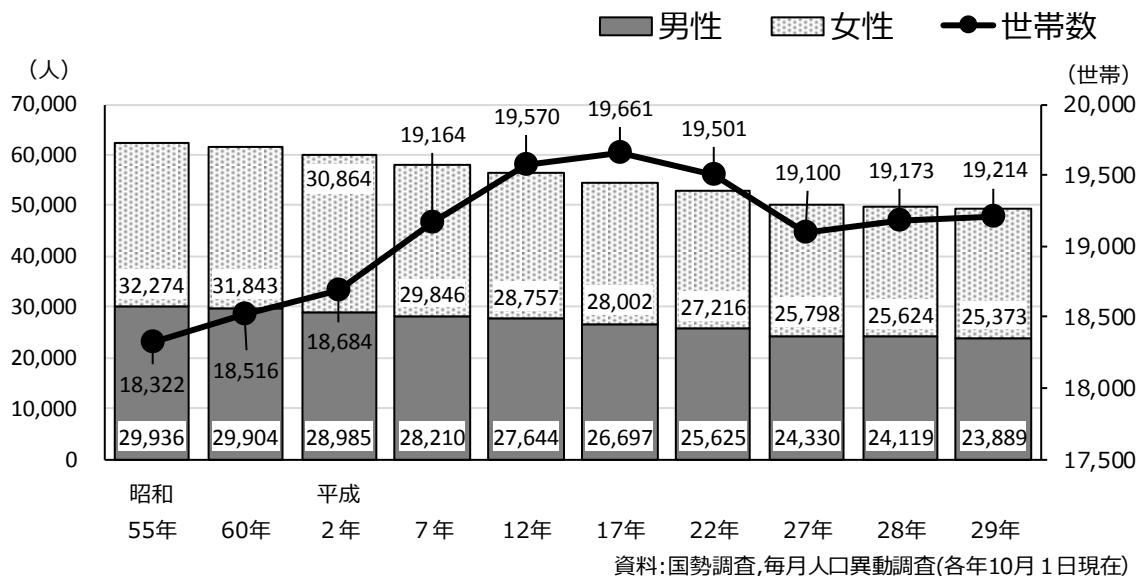
岡谷市教育大綱（2015 年～2018 年）成果と課題について

I 現状

1 岡谷市人口推移

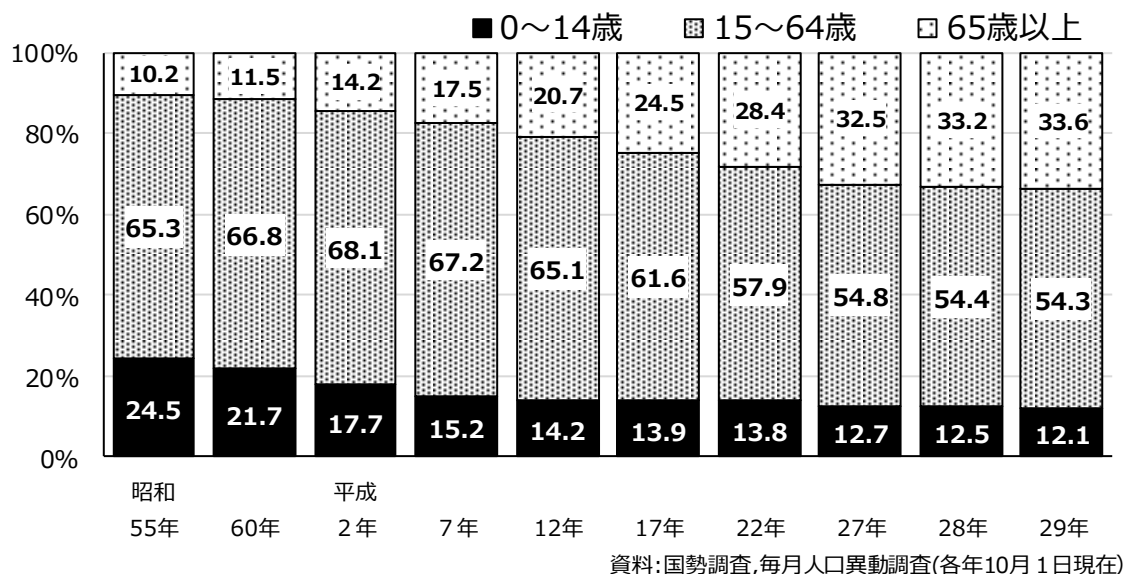
(1) 岡谷市の人口推移

人口急減という深刻な課題に直面しており、国立社会保障・人口問題研究所の推計（平成 29 年推計）でも、2053 年に 1 億人を下回ることが予測されています。



(2) 年齢別人口構成比率の推移

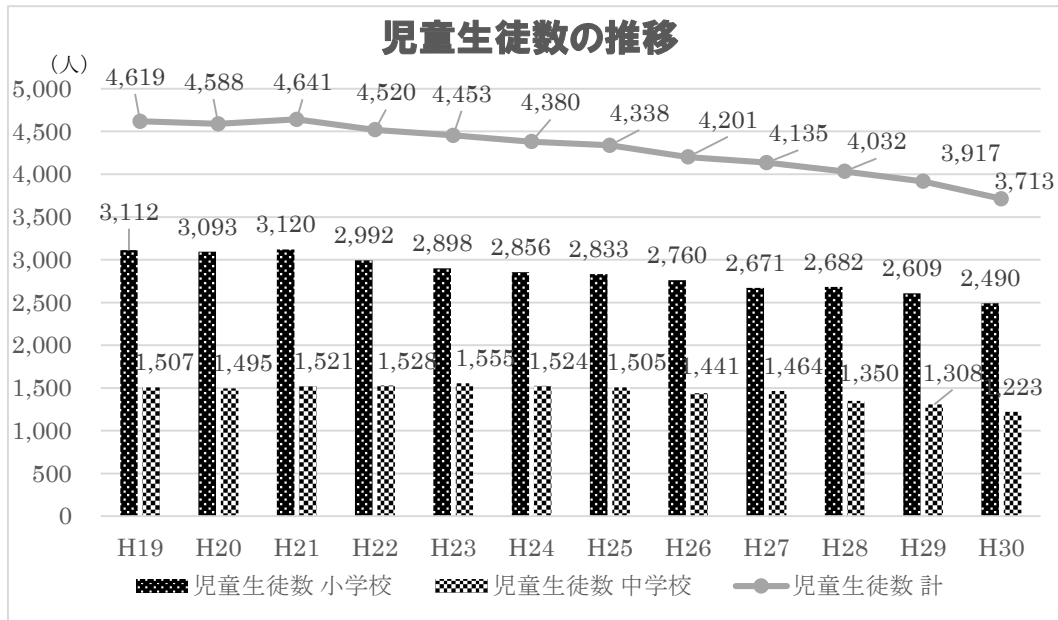
特に、出生数の低下により、15 歳未満の人口は減少が続き、2056 年には 1,000 万人を割ることが予測されている一方、65 歳以上の人口は増加を続け、2025 年には団塊の世代が 75 歳を超えて後期高齢者となり、国民の 3 人に 1 人が 65 歳以上、5 人に 1 人が 75 歳以上という、これまでに経験したことのない超高齢社会を迎えます。



2 児童生徒の状況

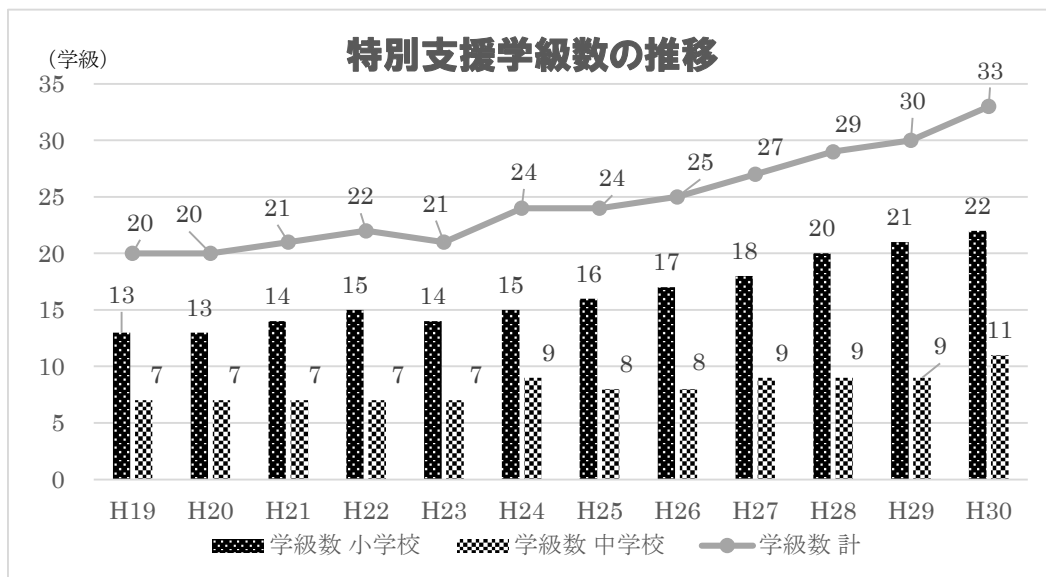
(1) 児童生徒数の推移

児童生徒数は、小学校で昭和 55 年の 6,529 人をピークに減少しており、平成 29 年には、ピーク時の 4 割となる 2,609 人となっています。中学校では、昭和 62 年 3,192 人をピーク時の 4 割強となる 1,308 人という状況であり、いずれも半数以下という状況です。

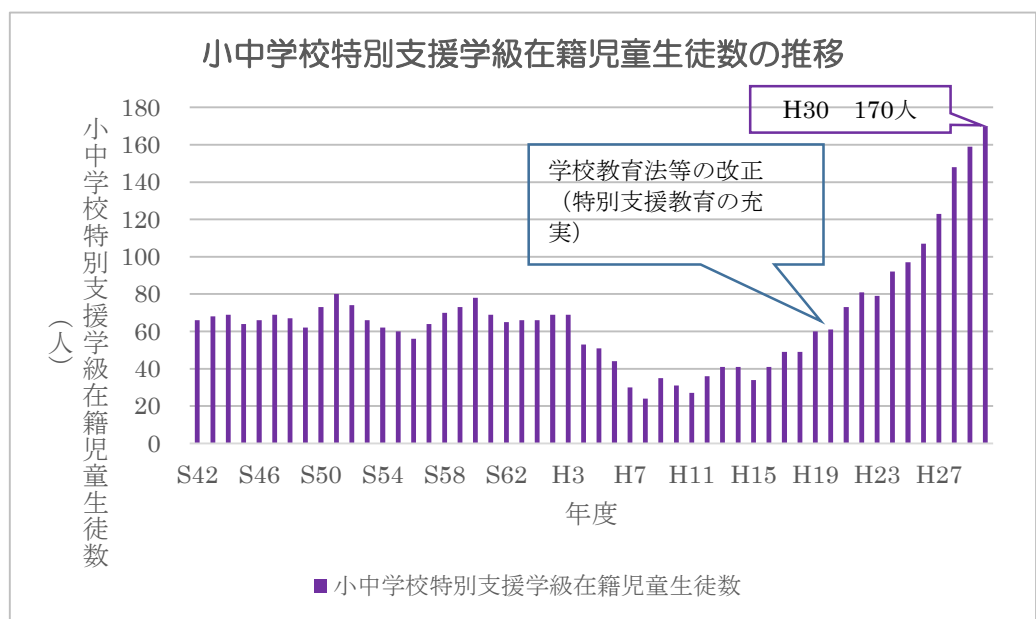
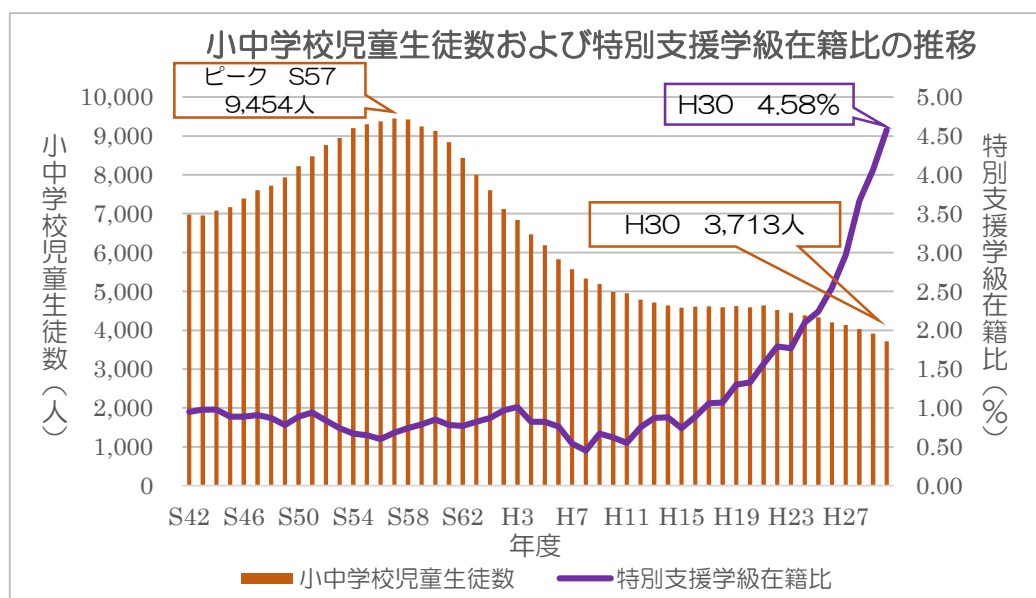
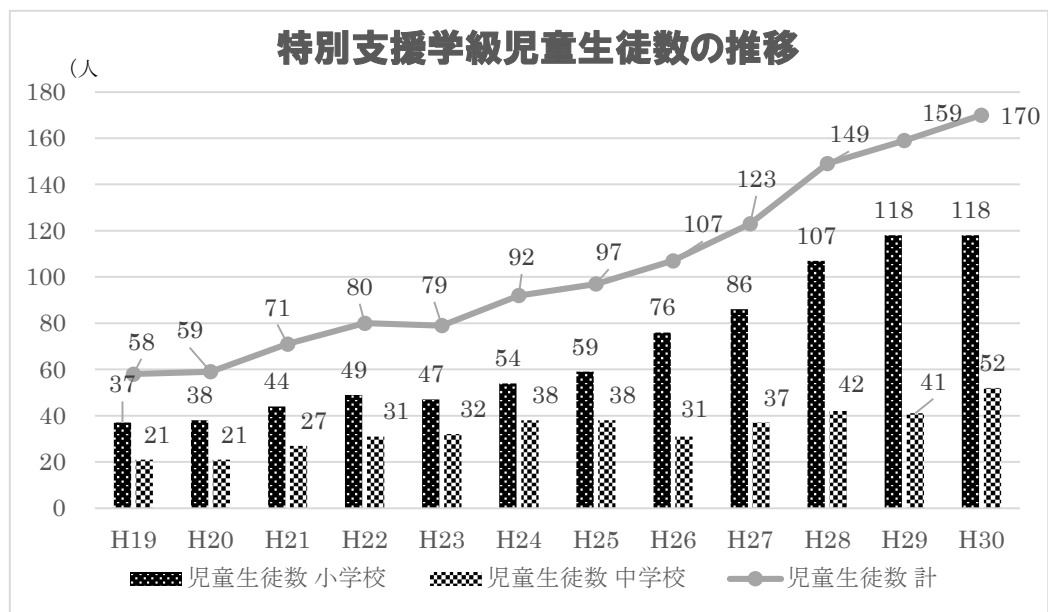


(2) 特別支援学級の児童生徒数

特別支援学級は、最も少なかった平成 8 年の小学校 9 学級、中学校 6 学級以降、年々増加しており、平成 29 年には、小学校で約 2 倍強の増加の 22 学級で、中学校では約 4 割増の 9 学級という状況です。



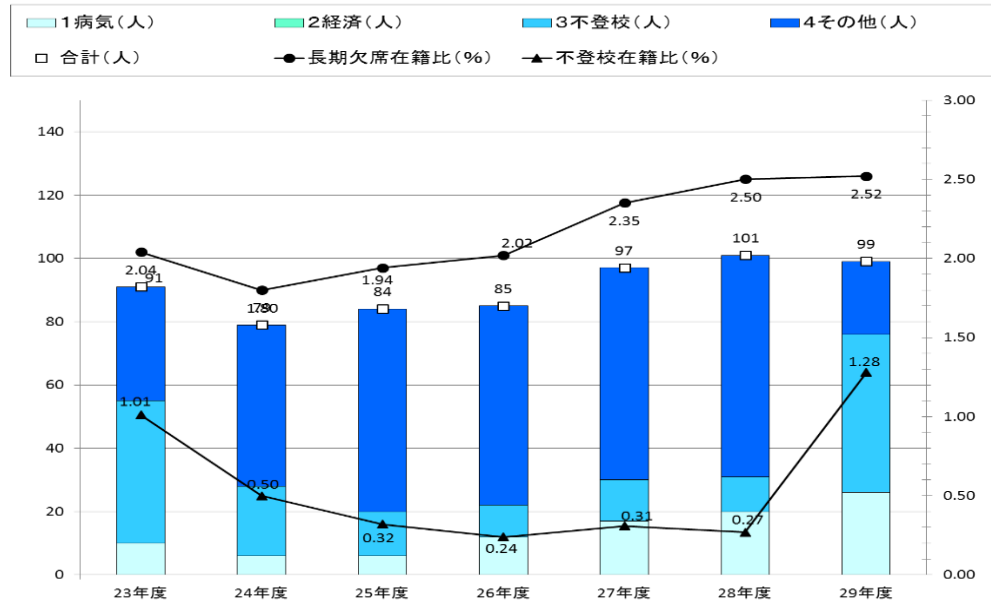
特別支援学級の児童生徒数は、最も少なかった平成 8 年の小学校 15 人、中学校 9 人以降、増加しており、平成 30 年には、小学校で約 8 倍近い増の 118 人で、中学校では約 6 倍に近い増の 52 人という状況です。



(3) 長期欠席の児童生徒数

不登校については、子ども総合相談センター設置の平成 23 年以降減少してきているが、その後はほぼ横ばいという状況です。

長期欠席全体では、平成24年までは減少傾向であったが、その後増加傾向に転じています。



(4) 全国学力・学習状況調査の状況

平成29年度結果から

【教科に関する調査】

□小学校では、国語 A・B、算数 A・B とともに県・全国平均を上回り、特に国語 B において、力を発揮することができ、各校の授業改善の成果が見える結果となっています。

□中学校では、国語 A・B、数学 A・B とともにほぼ県平均と同程度であり、各校の授業改善の成果や改善の兆しが見える結果となっています。

【質問紙調査】

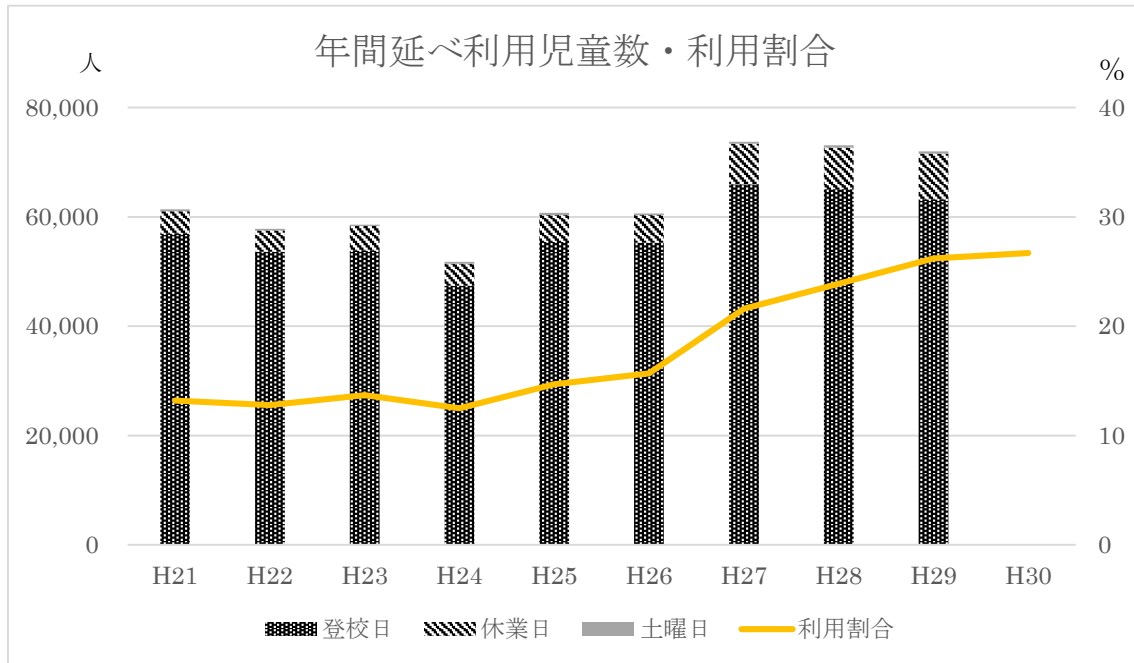
□小学校では、「自分によいところがある」「いじめはどんな理由があってもいけない」「国・算の勉強は大切。国・算の授業の内容はよく分かる」の割合が高く、「自尊意識」、「規範意識」、「学習に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることがうかがえます。

□中学校では、「自分によいところがある」「国・数の勉強は大切。数学ができるようになりたい」「国・数で勉強したことは、社会に出た時に役立つと思う」の割合が高く、「自尊意識」、「学習に関する関心・意欲・態度」等の高まりにつながっていることがうかがえます。

3 社会教育施設等の利用状況

(1) 学童クラブ利用状況

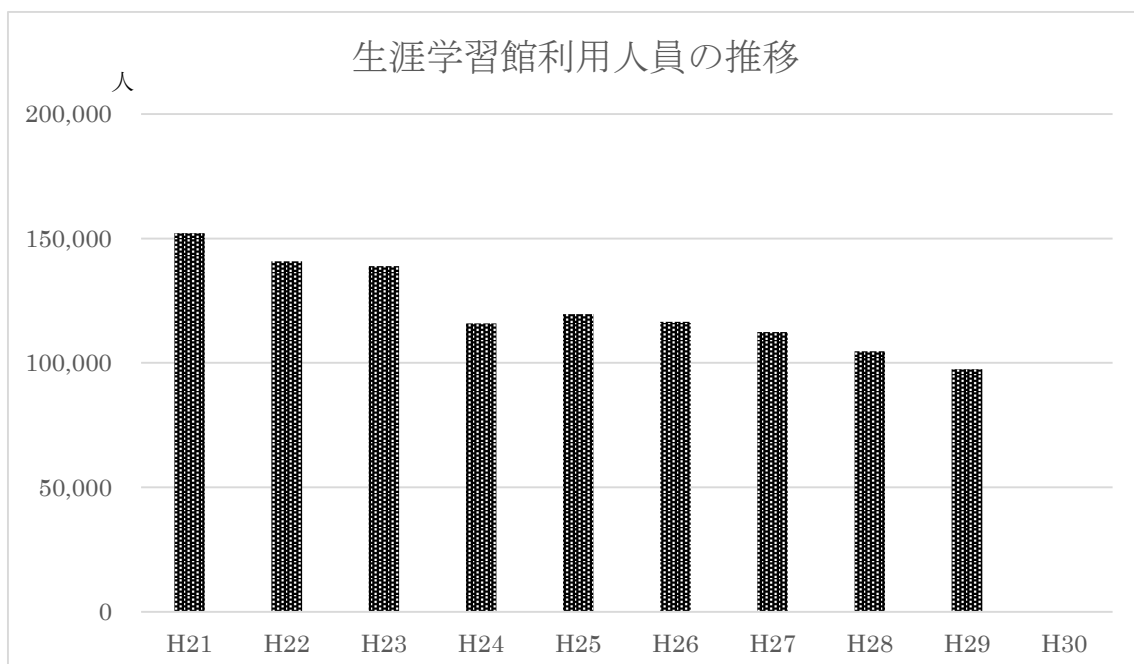
利用対象学年を全学年に拡大した平成27年度からは7万人台を超え、以前より2割ほど利用児童数が増加しました。少子化が続いていますが、全児童数に対する学童クラブの利用割合は増加傾向にあります。

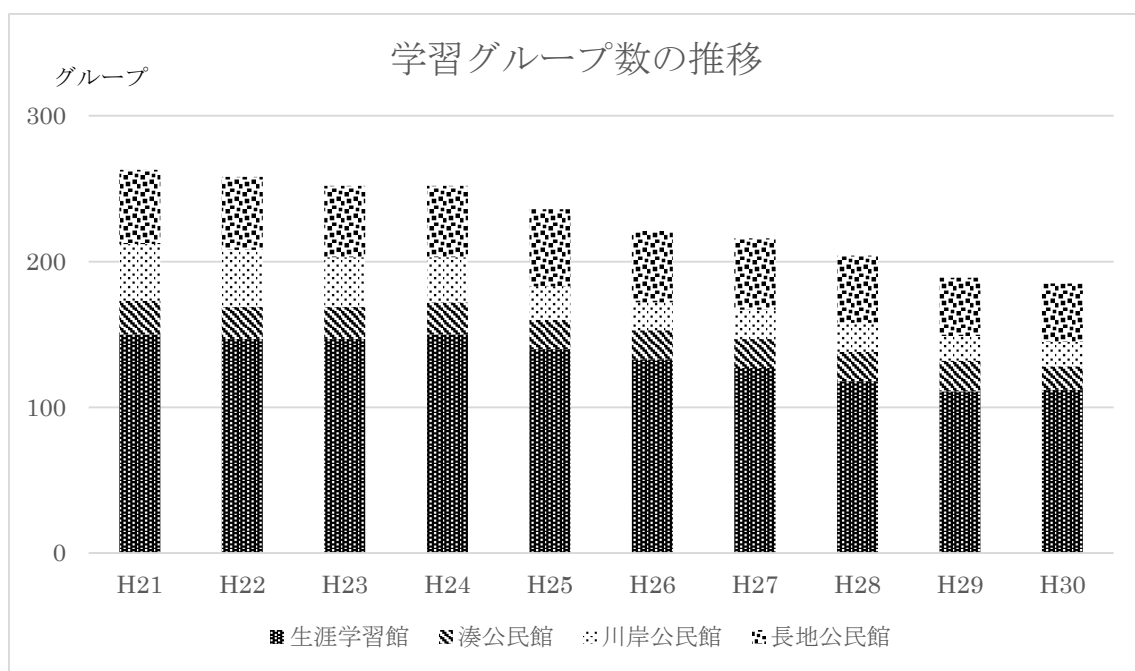
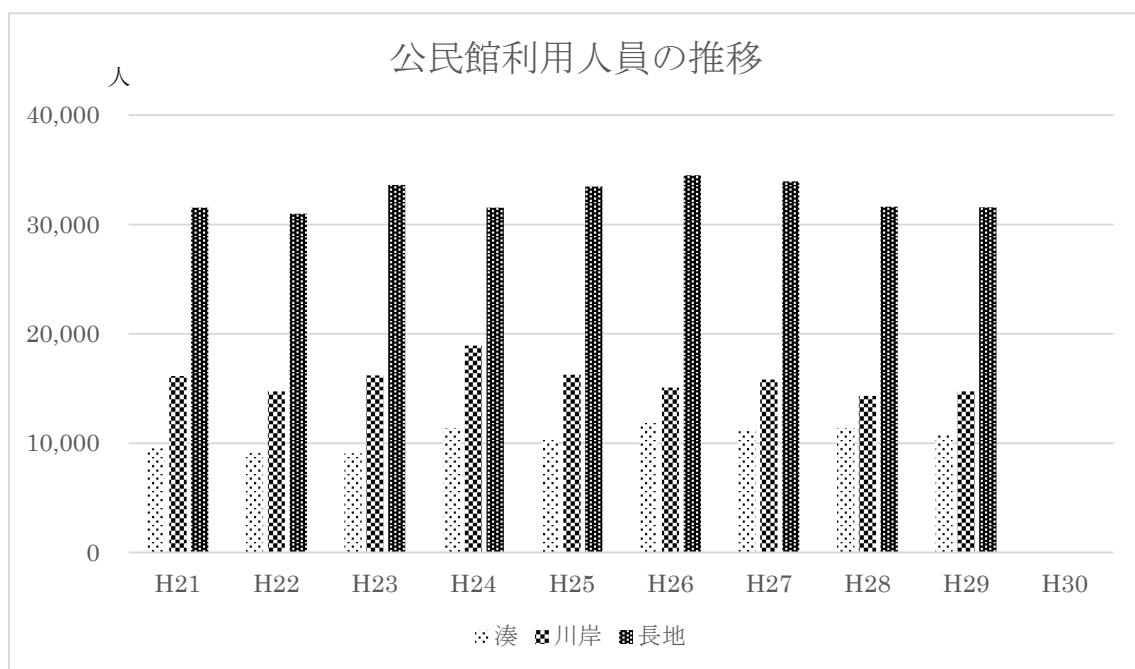


※利用児童数は各年度3月末現在、利用割合は各年度4月当初時点

(2) 生涯学習館・公民館

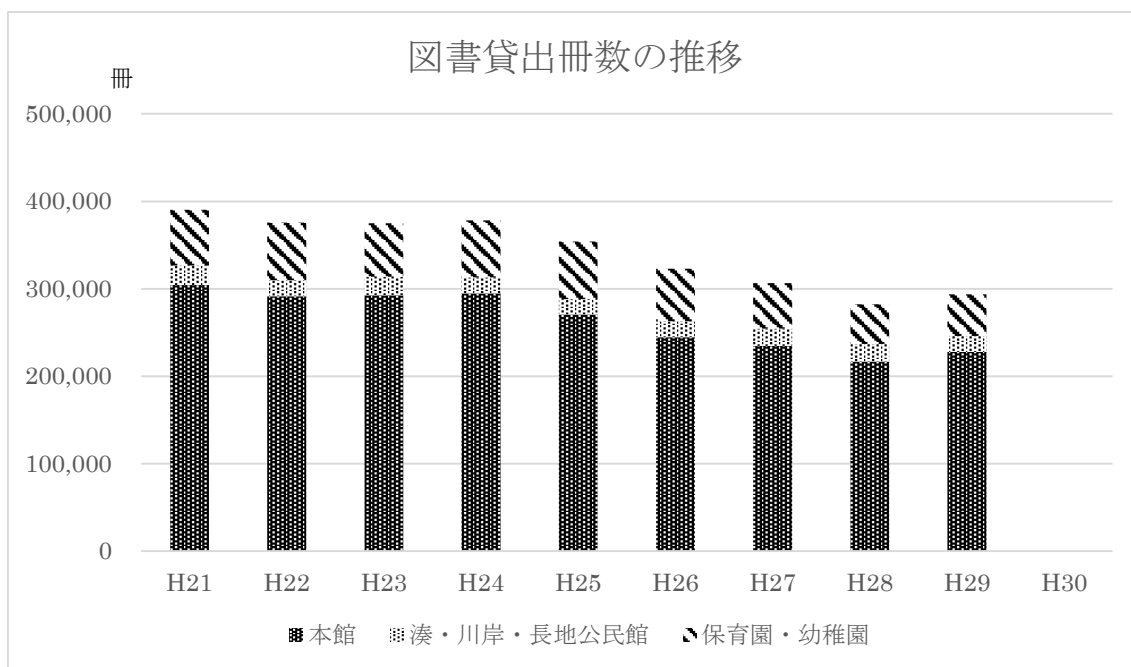
生涯学習館、公民館ともに利用人員は、減少傾向にあります。学習グループの講師や参加者の高齢化により、グループ数の減少や活動の縮小が進んでいます。





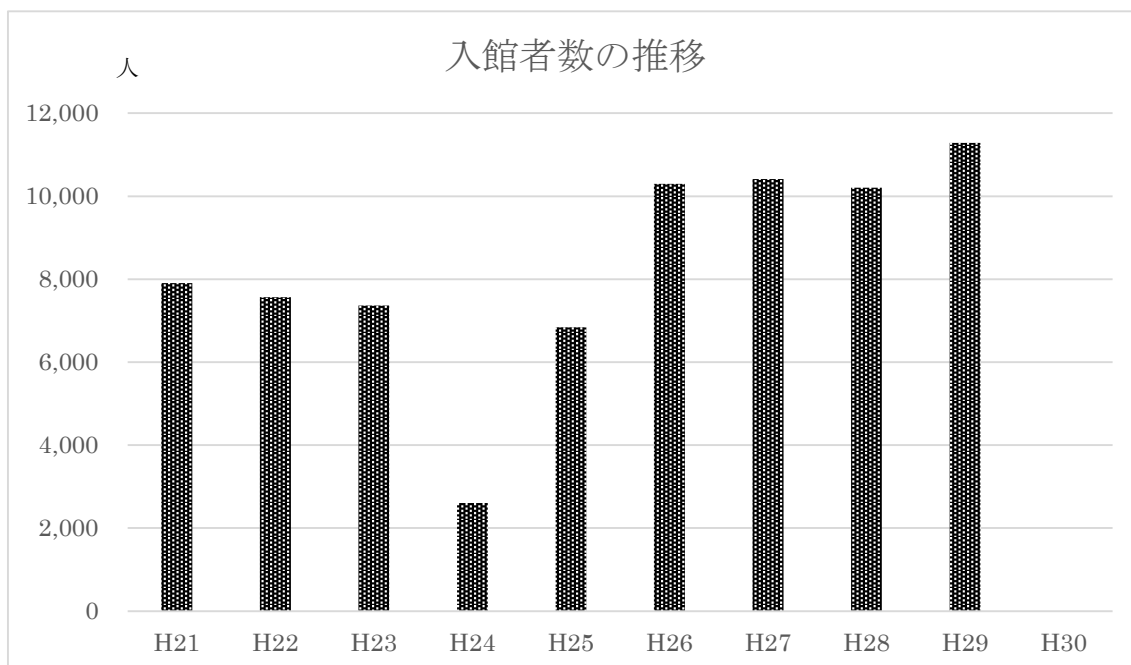
(3) 市立岡谷図書館

全体的に貸出冊数は減少していますが、平成29年度からの夏休み中のサマータイム導入や、諏訪広域ネットワークシステムによる相互貸出の認知度向上などにより、平成29年度はやや増加しました。



(4) 市立岡谷美術考古館

平成25年リニューアルオープン以来、入館者数は堅調に推移しています。イベントやワークショップ、数々の特別企画展の開催などの効果が現れてきています。

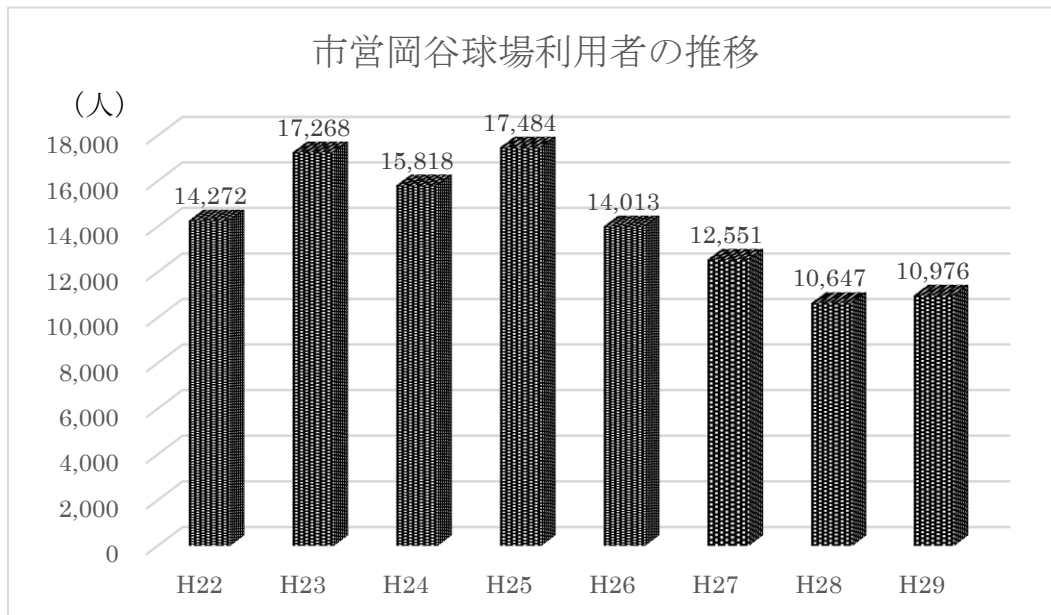


※H24.5.31～H25.11.2 移転準備により休館

4 スポーツ施設利用状況

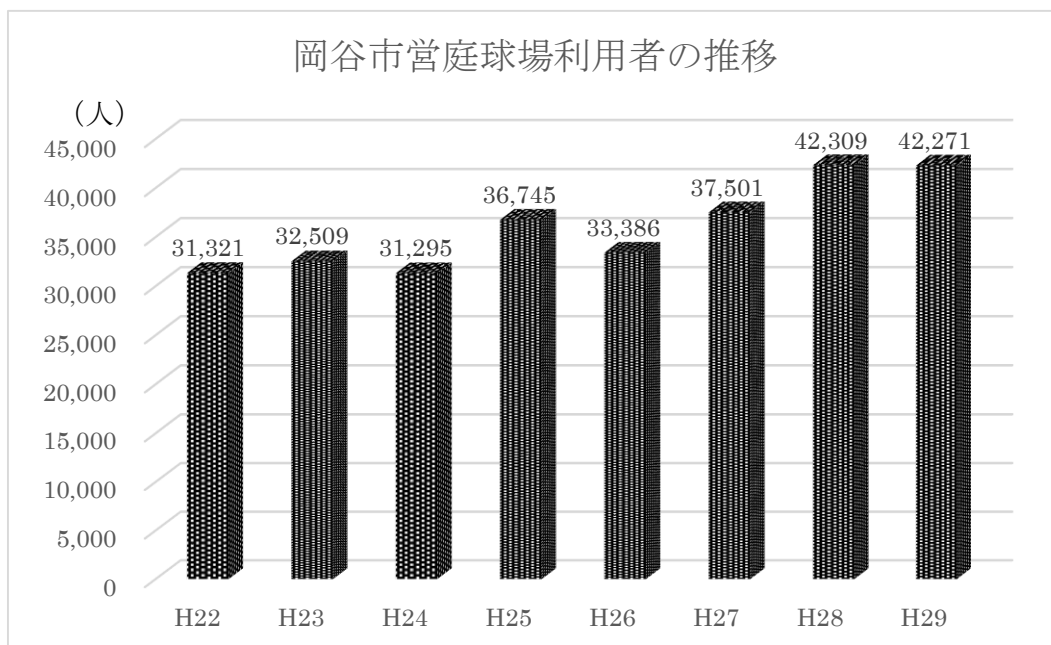
(1) 市営岡谷球場

市営岡谷球場の利用者数は、平成 25 年の 17,484 人をピークに近年は減少傾向となっています。



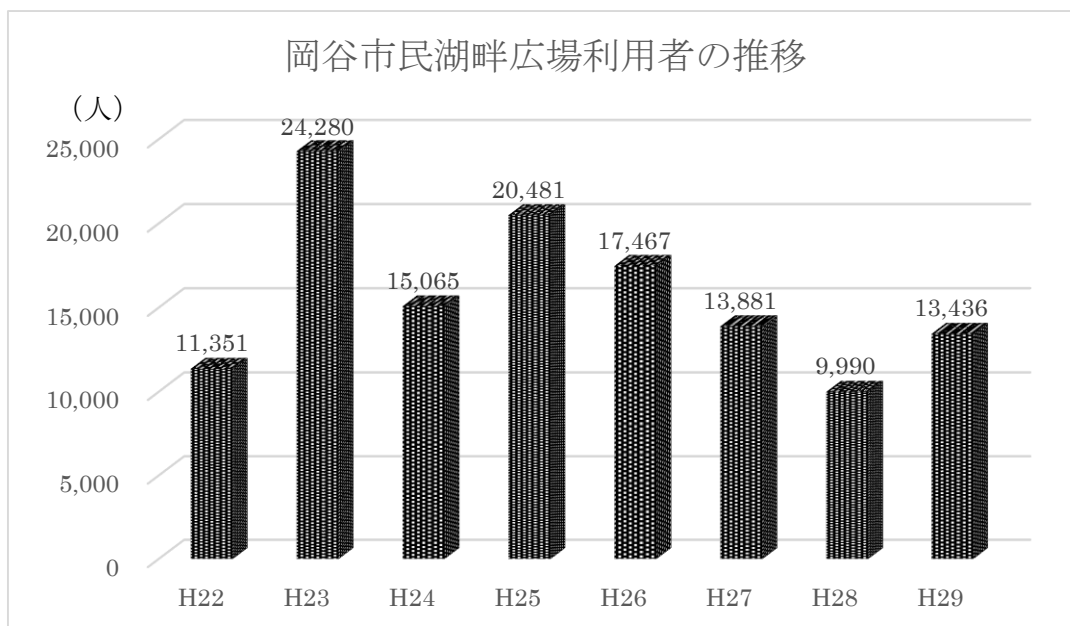
(2) 岡谷市営庭球場

岡谷市営庭球場の利用者数は、緩やかな増加傾向となっています。



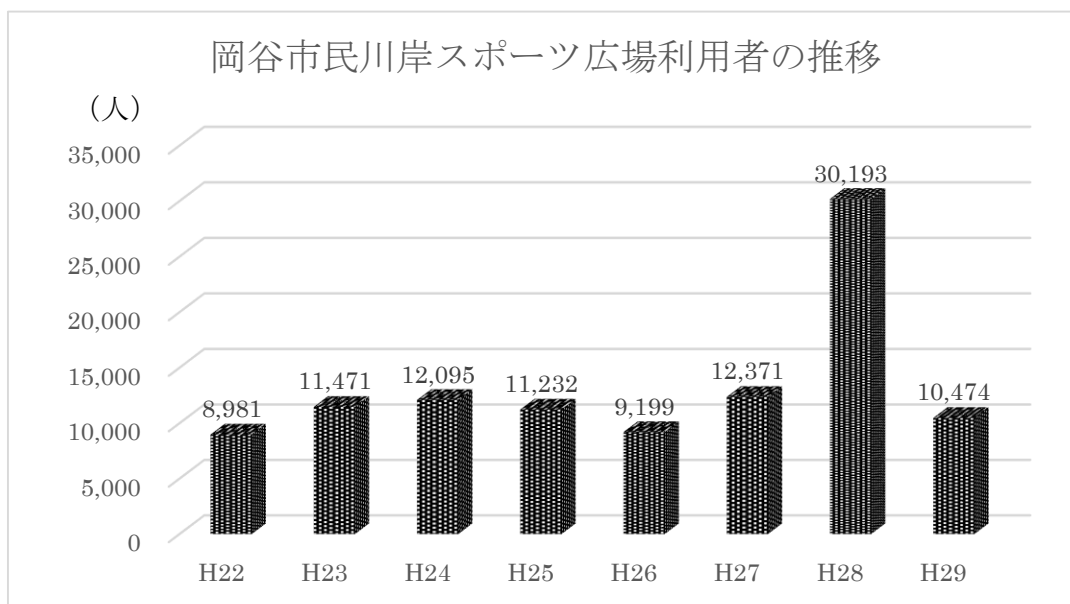
(3) 岡谷市民湖畔広場

岡谷市民湖畔広場の利用者数は、全体的に減少傾向となっています。



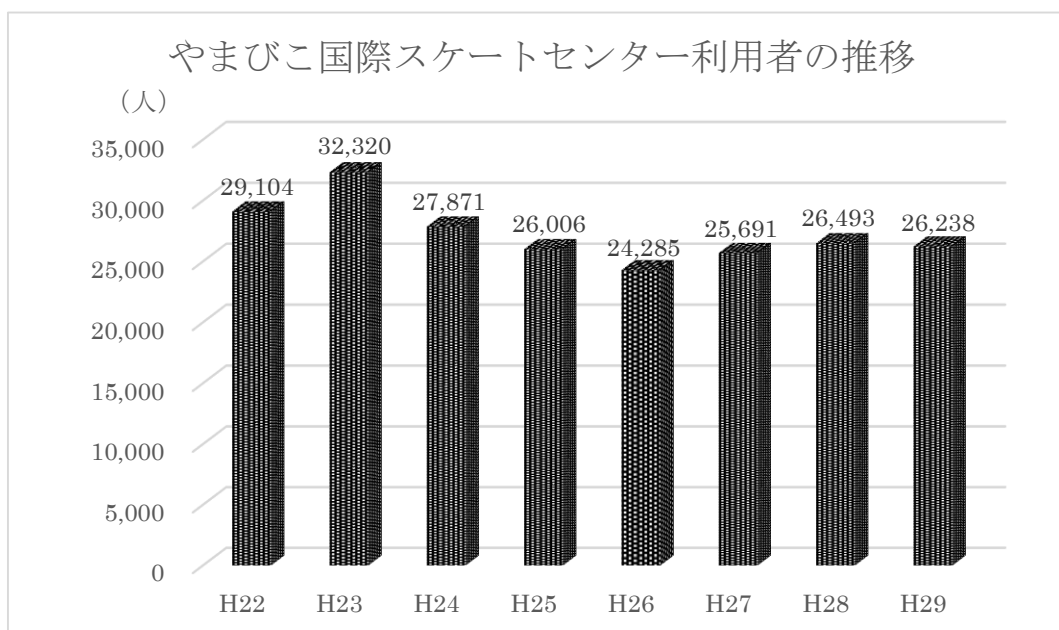
(4) 岡谷市民川岸スポーツ広場

岡谷市民川岸スポーツ広場の利用者数は、ほぼ横ばいの状態となっています。平成 28 年については岡谷西部中学校の改修工事に伴う授業、部活等での利用による増加となっています。



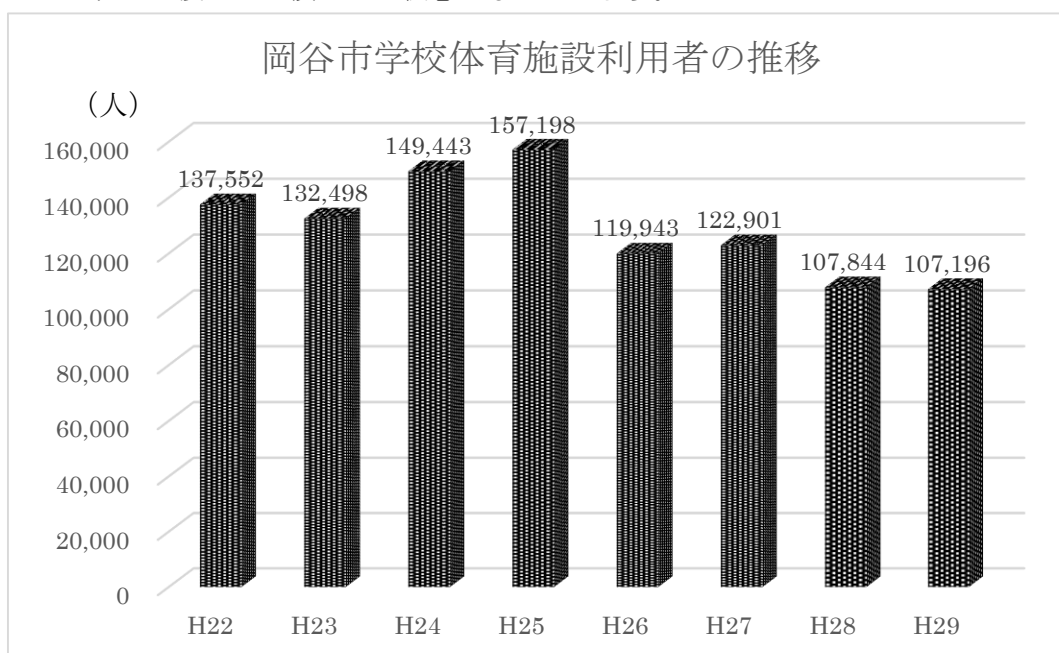
(5) 岡谷市やまびこ国際スケートセンター

やまびこ国際スケートセンターの利用者数は、平成 23 年の 32,320 人をピークに減少傾向であったが、その後は緩やかな増加傾向に転じています。



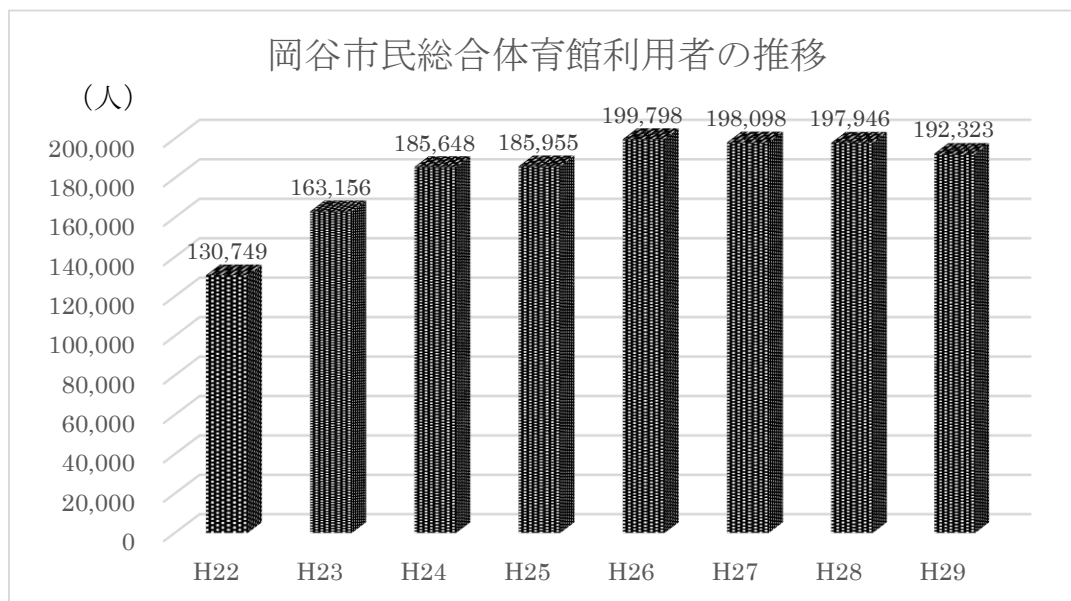
(6) 岡谷市学校体育施設

岡谷市学校体育施設の利用者数は、平成 25 年の 157,198 人をピークに減少傾向であったが、その後はほぼ横ばいの状態となっています。



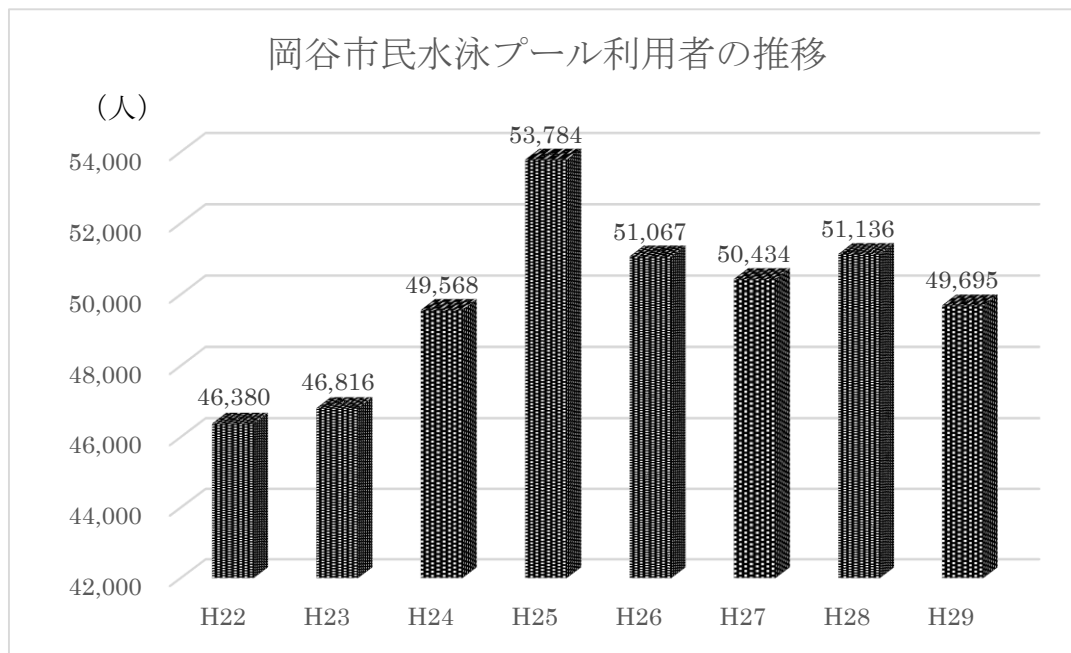
(7) 岡谷市民総合体育館

岡谷市民総合体育館の利用者数は、近年増加傾向にあり、平成 26 年以降はほぼ横ばいの状態となっています。



(8) 岡谷市民水泳プール

岡谷市民水泳プールの利用者数は、平成 25 年の 53,784 人をピークに減少傾向となっています。



Ⅱ 成果と課題

1 学校教育分野：「生き抜く力と創造力、知的好奇心溢れる心豊かなひとづくり」

(1) 地域に根ざした特色ある学校づくりの推進

市内全小中学校に岡谷版コミュニティスクールが導入され、学校と地域が連携し、魅力と活力ある学校づくりを進めるとともに、チーム学校の実践により学校の総合力を高めながら、地域と共に学校づくりを推進する体制が確立されました。

今後は、各学校のコミュニティスクールをさらに充実発展させ、ものづくりのまち岡谷の特色を活かし、外部人材を活用した教育活動の推進を図る必要があります。また、児童生徒が自ら考え行動し、社会貢献活動や地域の行事等に参加することで規範意識の醸成を図ることが求められております。

(2) ふるさと岡谷に学ぶ学習の推進

ものづくりに代表される、ふるさと岡谷の様々な地域資源を活かした、岡谷ならではの学習カリキュラムである「岡谷スタンダードカリキュラム」を構築し、各学校での実践につなげるためのシステム作りを進めています。この岡谷スタンダードカリキュラムをベースとしたカリキュラムマネジメントの実施により、岡谷の「ひと・もの・こと・ところ」の良さを実感し、それらの学びが支えとなり、自分らしさを発揮し、主体的に課題を解決できる力を育むことが求められています。

(3) 安心して学べる教育環境の整備

恵まれた自然と共存するため、自然災害に備えた安全・安心の教育環境づくりを推進し、自分の命は自分で守ることができる防災教育の推進が必要となっています。これまで各学校において、様々な災害を想定した避難訓練や危機管理能力の育成や危機管理マニュアルの作成行ってきましたが、近年では、想像を絶する災害、事件、事故が発生しています。今後は、あらゆる危機管理を想定した能力の育成や学校と家庭・地域が連携した安全体制の充実が求められています。また、学校施設も建築後30年以上が経過しているものが多く、劣化度も進んでいることから、施設の長寿命化を見据えた計画的な整備が必要となっています。

子ども総合相談センターを中心に、一人ひとりの子どもの育ちを支えるため、専門職員や関係課とも連携した取り組み行ってきました。センターが発足し8年が経過しますが、家庭環境は益々複雑化し、相談件数も増加のしているため、様々な教育課題や家庭環境等の課題の解決を図るための体制整備が必要となっています。また、生活困窮者の増加や社会・経済的格差の拡大が進むなかで、誰もが必要な教育の機会を得ることができる環境整備が必要となっています。

(4) 確かな学力保障と成長保障を図る授業改善

子ども達の学力向上に向け、学力向上専門官（主任指導主事）及び学力向上アドバイザーを配置し、体制整備の構築を図っています。今後は、学力向上専門官と学力向上アドバイザーを中心に主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けた取り組みやカリキュラムマネジメントの確立を図り、新しい時代に求められる資質・能力を育成し、基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力の醸成を図る必要があります。

す。

（５） 自立と共生につながる教育活動の充実

岡谷市と連携し、総合教育会議において平成２７年２月に「岡谷市いじめ防止等のための基本方針」を策定し、子ども支援チーム会議を中心に学校・家庭・地域が連携しチーム体制でいじめ防止に取り組んでいます。引き続き、自己肯定感、他者への思いやり、人間関係を築く力などを養うとともに、前向きに挑戦やり遂げる力の育成が求められています。また、多様化、深刻化する健康課題に対応するため、学校の教育活動全体を通じた体系的な保健体育の充実を図り、加えて食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることにより、たくましく生きるために必要な健康や体力を養うことが必要となっています。

２ 生涯学習分野：「歴史と文化を礎に、自ら学び続け、地域で輝くひとづくり」

（１） 地域に学び貢献する生涯学習

生涯学習館や公民館を中心とした各種講座を実施し、自主的な学習活動を推進する学習グループの育成に努めております。また、広報おかや、新聞、テレビやインターネットなど様々な広報媒体を活用し、学習の機会提供について情報発信にも努め、市民の学習意欲の啓発に取り組んできました。学習グループ参加者の高齢化により、グループ数が減少傾向にあり、平成２９年度はグループ数が２００を下回りました。

今後も引き続き、生涯学習を積極的に進めるための地域の人材確保と養成に努めるとともに、ボランティアなどの社会貢献活動の充実に向けた支援が必要です。

（２） ふるさとを誇りに思う生涯学習

本市の文化、歴史、産業や先人の偉業などを通して、ふるさとを誇りに思うことで「地域力」を高めていくため、関連する講座や学習機会の提供をするとともに、後世に伝えるべき文化財の調査や保存に努め、それらを公開することで生涯学習やまちづくりへの活用にも努めてまいりました。平成３０年度に開館５周年を迎えた美術考古館は、当市出身画家の作品展示をはじめ、考古展示や館長によるワークショップなど、スタッフの充実による多彩な取組が、来館者数の著しい増加につながりました。

縄文の文化財は、２０１８年に日本遺産に認定され、小学校でのスタンダードカリキュラムへの取り込みや、公民館での体験学習や講座など、ふるさとの文化の継承に努めました。これからも関係部署や自治体と連携した情報発信にも努め、地域の活性化を図っていくことが必要です。

（３） 未来を担う青少年を育む生涯学習

子ども会育成連絡協議会をはじめ、地域子（己）育てサポーター、少年愛護協議会など、青少年の健全育成にかかわる団体との協働で、「地域の子どもは地域で育てる」土壌づくりに努めてきました。

小学校では学童クラブの利用対象学年を平成２７年度から全学年に拡大しました。放課後子ども居場所づくり事業は、地域住民の運営により各小学校で実施され、学校と地域との連携による安全・安心な居場所づくりが定着し、今後は運営スタッフの高

齢化による後継者づくりが課題となっています。

また、読書活動を通して子どもの健やかな成長を支えるため、ボランティア団体や学校図書館、保育園、関係部署等と連携した子ども読書活動推進体制が図られており、児童図書の蔵書数は県下でトップクラスにあります。引き続き子どもの読書活動推進を図るため、平成30年度には「第3次岡谷市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

少子高齢化や急速な情報通信機器の普及など、青少年を取り巻く環境は依然として変化し続けており、関係機関が連携した積極的な支援が求められています。

（４）親力、家庭力が向上する生涯学習

乳幼児を持つ保護者を対象にした、生涯学習館と公民館での「輝く子育て支援学級」や、保育園、小学校での家庭教育学級などを通して、子育ての不安解消や情報交換、仲間づくりに役立つよう支援をしています。また、各地区において「乳幼児親子ふれあいの集い」や「地域子（こ）育てミニ集会」、子ども会育成会の活動など、地域での子育て支援関係団体の協力により、輝く子どもの育成に努めています。

地域、家庭、学校、行政が連携して、地域全体で子どもを見守る体制を維持しつつ、子どもの育ちに対して保護者が正しい理解や考え方をしてもらえるよう、福祉部門や子育て支援部門など関係部署とも連携を図りつつ、積極的な支援の必要性が高まっています。

３ スポーツ分野：「親しみ、挑戦し続ける、たくましい心と体のひとづくり」

（１）市民ひとり１スポーツの実現

地域におけるスポーツは、（公財）岡谷市体育協会やスポーツ推進委員等と連携し、市民の体力向上やスポーツ振興に取り組んでいます。

高齢者人口が増加している中、年齢や体力に応じたスポーツ機会の充実を図ることが必要とされており、スポーツ団体等と連携しながら、市民のライフステージに応じたスポーツ活動の推進、世代間や地域間の交流、誰もが気軽にスポーツに参加できる環境づくりに努める必要があります。

（２）競技力の向上

東京オリンピック・パラリンピックを目前に、スポーツに対する関心・意欲が高まってきています。また、2027年第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会の長野県での開催が事実上決定しています。

今後は、全国大会等の誘致や競技力向上のための教室、大会を開催するとともに、全国的な舞台で活躍できる選手の育成支援ならびに、スポーツ指導者等の養成を推進する必要があります。

（３）子どものスポーツ機会の充実

子どもの運動能力の向上を図る取り組みとして、小学校1、2年生を対象に、学校授業の中に専門指導員を派遣し、スポーツを行うきっかけづくりのための「おかやキッズ体力アッププログラム」を導入し、子どもが元気にスポーツを楽しめる環境の整備が進んでいます。

今後は、子どもたちの成長期に合わせた体力向上策をより一層推進し、多様なスポーツ機会の充実を図る必要があります。

(4) スポーツによるまちづくり

本市のスポーツ施設は、県内有数の規模を誇る施設であるとともに、首都圏、中京圏からの交通アクセスの利便性が高いことなどの恵まれた環境にあります。

恵まれた施設や交通アクセスと豊かな観光資源を PR し、2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けた事前合宿等の招致や2027年第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会開催に伴う競技会場の誘致をめざします。

また、本市ゆかりのスポーツをはじめとする、スポーツを通じた家庭や地域の交流、人材育成、地域振興を図るとともに、(公財)岡谷市体育協会や関係団体等と連携し、各区対抗体育大会などのスポーツ機会の充実を図り、スポーツによるまちづくりを推進します。

(5) スポーツ環境の整備・充実

スポーツ施設を活用し、様々な大会をはじめとするスポーツイベントが開催され、市民が施設を身近に利用しています。

安全で快適なスポーツ活動に取り組めるスポーツ環境の整備、充実に努めるとともに、施設の効率的な管理と有効活用の推進・情報提供に努める必要があります。